

国際学術シンポジウム「現代中国のリベラリズム再考」開催報告

日時：2017年7月29日(土)～30日(日)

場所：7月29日(土) 明治大学駿河台校舎グローバルフロント3階403N

7月30日(日) 明治大学駿河台校舎グローバルフロント1階グローバルホール

「現代中国のリベラリズム再考」を上記日程で開催した。この国際シンポジウムは、現代中国におけるリベラリズムについて、中国国内で活躍している代表的リベラリストとともに、さらにカナダからの中国研究者による関連テーマについての報告を受け、会場からの熱心な質疑も交え、現代中国の政治・社会思想としてのリベラリズムの全体像を模索するものとなった。

これまで日本では、中国近現代(modern)の自由主義についての紹介はおこなわれてきてはいるものの、現代(contemporary)思想としては「新左派」を中心にしてのみ扱われるという顕著な傾向があった。この理由の一つとしては、現代中国におけるリベラリズムが、実際には社会民主主義から民主社会主義、さらにはリバタリアニズムまで視野に入れているにもかかわらず、現執行体制のイデオロギーに対して根源的に「批判的」であるため、これまで体制側による一方的評価である「反体制」として分類されがちであったことが挙げられる。

こうした傾向に配慮しつつ、各報告者からは次のような報告とディスカッションが進められた。また、7月30日の会場には70人以上の参加者が来場し、熱心な質疑が行われた。

●7月29日(土) 各発表者、研究関係者一同によるクローズドディスカッション

●7月30日(日) 一般参加者の入場を得て各発表者の報告、コメント、ディスカッション、および全体での質疑応答

1) 許紀霖(華東師範大学教授)

テーマ：新東亜秩序の構想：欧州連合(EU)式の運命共同体

2) 劉擎(華東師範大学教授)

テーマ：中国リベラリズムをめぐる政治的論述の困難さに対する省察

3) 水羽信男(広島大学教授)

上記1) 2) を受けてのコメント

4) J. Fogel (Professor, York University)

テーマ：天下主義の復興：中国の学界は普遍的価値観を如何に見ているのか

5) T. Cheek (Professor, University of British Columbia)

テーマ：現代中国の知的公共領域

6) D. Ownby (Professor, Université de Montréal)

テーマ：中国の勃興とリベラリズム

7) 王前(東京大学グローバル・コミュニケーション研究センター特任准教授)

上記4)～6) を受けてのコメントと問題提起

8) 許紀霖、劉擎による総括コメント

※全体司会：本学法学部教授 鈴木賢、閉会時の挨拶を商学部教授 石井知章が行った。

プログラムの詳細は現代中国研究所のホームページ(以下URL)を参照。

http://www.kisc.meiji.ac.jp/~china/report/2017/news_20170620

以上

報告者：石井知章